

みちのくだより 宮城

海都石巻

ベガルタ仙台が全国的に認知され、日本代表がワールドカップ決勝リーグに進んだ歴史的快挙とともに、イタリア代表のスター軍団アズーリのキャンプ地となるなど、サッカー関係の話題に事欠かない近況です。

そのイタリアと当地仙台藩主伊達政宗とは親交があり、木造船でローマに390年前に出航したのが石巻市の月浦港でした。

石巻市は、宮城県第2の都市で北上川が太平洋に注ぐ河口に位置し、江戸時代に伊達藩・南部藩の米を江戸に運ぶ海運の起点として発達した都市です。

また、港町特有の開放性と進取の気風＝新しもの好きは連綿と受け継がれ、サン・ファン・パウテスタ号の復元とともに、市民文化活動が評価され、熊襲が住むと揶揄された洋酒メーカーが主催している地域文化賞を2度受賞している数少ない町です。

市民文化活動は、若くしてガダルカナル島で戦死した彫刻家高橋英吉の遺作収集を通じ、郷土愛と市民文化を育んだことが評価されました。北村西望の「長崎平和記念像」制作に示唆を与えた雄大な漁夫の「潮音」・輸送船上で小さな流木に彫られた遺作「不動明王」を含め石巻文化センターに展

土木地質（株）
橋本 亮

示されています。

サン・ファン・パウテスタ号は、伊達政宗の命を受け、太平洋・大西洋の二大洋を横断し、日本人で初めてローマ法王に謁見した仙台藩士支倉常長ら慶長使節を乗せた木造帆船です。復元された同船は宮城県慶長使節船ミュージアムに、再度出帆する日を夢みながら繋留されています。



また、石巻から江戸に向かって米を乗せた千石船、江戸からは帰り荷として船のバランスを保つために多量の陶磁器や着物などが運ばれてきました。この千石船の名を今も残すのが観慶丸で、陶磁器やガラス器の老舗として有名です。この店に伝わる陶磁器を展示しているのが丸寿美術館です。古伊万里や九谷など約1,000点が展示されています。

みちのくだより 福島

まちづくり「いわき時代まつり」開催！

地質基礎工業（株）
鈴木 壮一

この度、私が40才までの5年間、会社から出向して参加していた「内郷青年会議所」を核とした「いわき時代まつり実行委員会」により、5年ぶりに「いわき時代まつり」が開催されます。1986年を

始めとして全12回開催後しばらくの充電期間を経て、今年平泉との交流20周年を記念して、平泉とゆかりの深い姫神を迎えて、その内容を「姫神コンサート」として盛大に催されるとのことです。今回

も裏方として何かお役に立ちたいと思っております。

それではここでおまつりの御案内をいたします。

社命、地域貢献の求めに従い、まつりを成功させるように微力を尽くしたいと思っております。

「姫神コンサート」白水阿弥陀堂

■ 日時 2002年7月20日（海の日）

開演 PM6:30 終演 PM9:00

■ 場所 内郷白水阿弥陀堂外苑広場

■ 出演 姫神 共演 いわき子供コーラス

■ 開催趣旨概要 1986年に始まった「いわき時代まつり」は県内唯一の国宝建造物である白水阿弥陀堂を題材として、時代行列・白水阿弥陀堂内でのイベントやコンサート等により皆様に愛され、浸透してきたことと思っております。

そしてさらに、このおまつりをいわきの活性化に役立つものにするために、4年間休止し、その間「いわき時代まつり実行委員会」はまちづくりの検討をしながら充電してまいりました。そして「まちづくり」をさらにステップアップさせるためにも「いわき時代まつり」は今回でフィナーレとし、更なる一歩を踏出す機会とさせていただきます。

そのフィナーレにふさわしく、もう一度皆様に白水阿弥陀堂のすばらしさを知っていただくためにも、今回「姫神コンサート」を開催することにいたしました。「姫神コンサート」は1996年に一度開催し、多くの方々から好評を博し、高い評価をいただいております。また今年は「いわき時代まつり」の原動力ともなっていた岩手県平泉町との交流が20年目ということもあり、その記念の事業とさせていただきますと思っております。

最後に「いわき時代まつり」を、今まで愛し続けていただいた皆様への感謝の気持ちとして、喜んでいただけるよう精一杯開催いたしますので、お誘い合せの上で来場ください。

■ 出演者紹介 「姫神」星 吉昭氏

1946年 宮城県若柳町に生まれる。

ファーストアルバム「奥の細道」をはじめ、TBSテレビワールドドキュメント「神々の詩」テーマ曲を収録した「縄文海流」、2000年にデビュー20周年を迎え発表した「千年回廊」を含め20枚のアルバムをリリース。

東北を中心として活躍する中で、海外における活動も活発であり、スペインをはじめ中国・シンガポール、2000年にはエジプト・スフィンクス広場においてのコンサート、イスラエル・エルサレムのコンサートを実施するなど、ワールドワイドな活動を行う。

毛越寺浄土庭園コンサートや、毛越寺本堂ライブを幾度も行うなど、平泉とのつながりは深く、歴史文化を背景とした活動は、平泉とのゆかりの地であるいわきへと発展し、1996年に初の白水阿弥陀堂浄土庭園コンサートを行った。姫神による音と光が織り成す幻想的な白水の空間は、室内では体験できないものであり、反響は大きく今回の開催に至った。

いわき時代まつりポスター：（いわき時代まつり実行委員会）からの引用。

みちのくだより 岩手

岩手県地質調査業協会技術部会の活動

日鉄鉱コンサルタント（株）
高橋 信一



岩手県地質調査業協会は会員17社で構成・運営されています。各部会活動の中で技術部会は、会員に限定せず、岩手県内で地質関連業務に携わる技術者全員の相互の技術力の向上・研鑽・啓蒙を目的に、現場見学会や事例発表会、講演会等を企画・実行しています。

平成14年度も去る5月31日に岩手県および県内市町村関係者、関連業界の技術者計90余名の参加のもと、事例発表講演会を開催致しました。ここに、その内容を紹介します。

【特別講演】

特別講演は3名の方を講師にお招きし、下記の題目でご講話をいただきました。

- ①「岩手山火山の現象と取り組み」
岩手大学建設環境工学科教授
齊藤徳美氏
- ②「三陸沖の大陸棚外縁水深の変化と地質学的意義」
元工業技術院地質調査所
海洋地質主任研究官 有田正史氏
- ③「社会資本整備をめぐる最近の動向」
岩手県県土整備部建設技術振興課
技術企画指導監 高橋克雅氏

齊藤教授は、今県内で最も注目を集めている岩手火山の監視、防災の第一人者として多忙に活躍されております。講演では平成7年から活動が活発化した岩手火山の最新の動きについて詳しく説明していただきました。終わりに、地域防災で重要なことは官・学・民が協力し合い一体となって取り組むことであると力説されていました。

有田氏は長年にわたって海洋地質、特に大陸棚の研究を続けてこられた方です。大陸棚の堆積物の分布と陸上に現れている地質構造との関係から、得られた新たな知見として、日本列島は北北西-南南東の方向で分断された小ブロックから成り、それぞれが西に傾動した地塊構造をもつとの興味あるお話を聞かせていただきました。

高橋氏は岩手県の建設技術の振興を先頭に

立って指導されています。講演では岩手県の建設投資の現況と今後の予測についてご説明をいただきました。その中で、これからのキーワードは環境と防災であること、これに取り組むためには学際的共同や多分野の技術の総合が必要になることを説かれ、地質技術者のもつアドバンテージは高いと激励をしてくださいました。

【事例発表】

引き続き行われた事例発表では、会員3名の方から話題提供がありました。

- ①「建設CALSに対応した地質業務成果の納品」
(株) 菊池技研コンサルタント
佐々木和則氏
- ②「橋梁の地質調査の事例」
(株) 総合土木コンサルタント
佐藤智宏氏
- ③「切土法面における法面勾配検討の1事例」
(株) 北杜地質センター
菊田 善広氏

①は我々が直面している電子納品についての事例紹介でした。岩盤柱状図の様式等にまだ統一されていない点があり、今後の課題であるとのことでした。

②、③は日常良く対面する業務内容で、②は橋梁基礎地盤としての軟岩の取り扱い方、③は強風化岩からなる切土のり面の適正切土勾配の決め方についての考察でした。

いずれも地質調査技術者にとっては身近な話題であり、参考となるものでした。

技術部会の活動行事はこれまで泥水加圧シールド工事現場や、トンネル工事現場等の見学会が実施されてきました。また、今回のような事例発表講演会形式の催しはこれで2回目となります。事例発表の面ではまだまだ応募が少なく、会の運営も不慣れで未熟な点も多くあります。しかし、このような活動が県内に定着し、相互の技術交流が深められれば益となることは多いと思います。今後も皆様の積極的な参加をお願いします。

みちのくだより 山形

将棋駒と湯の古里 天童の街自慢

(株) 新東京ジオ・システム
代表取締役 奥山 紘一

我がまち天童の市街地にそびえる舞鶴山は、春に人間将棋が行われる観光のスポットであり、山すそに建勲（たけいさお）神社や明治の洋風建築を現代に伝える旧群役所（歴史資料館）などがある文化ゾーンであり、日々市民が集う憩いの場でもある。

舞鶴山は、山容が翼を広げて優雅に舞う鶴のように見えるところからその名が付いた、と言われる。また天童の地名は、南北朝時代の武将北畠天童丸が山城を築いたことから天童の名がついたと言われるが、別に天から童（わらべ）が舞い降りて天童の地名がついた、とも言われ、私は後の由来のほうがロマンがあって好ましいと思う。

山の中腹にある建勲神社は、天童藩織田家の末裔の織田信敏が先祖信長を祭るために明治2年に建立されたものであり、近郊一のお社としての賑わいと緑陰の中に佇む風情はなかなかのもので、日々参詣する人が絶えず、春の大祭は圧巻である。

この舞鶴山の山頂で繰り広げられる人間将棋は、太閤秀吉が関白秀次を相手に桜花欄満の伏見城で、小姓と腰元を将棋の駒にみたてて野試合を楽しんだという故事にならってのものであり、一大イベントである。

天童には将棋の文化が息づいていて、街のあちこちで将棋駒に出会うことができる。なかでも指し駒・飾り駒・根付け駒、特に左馬は縁起物として重宝がられ、今や天童の名産のひとつとして人気が高い。ちなみに左駒の由来は、一つにウマの逆、マウ（舞う）、舞は祝いの席で催されるため「縁を招く駒」、二つに文字の下部が巾着の形をしていることから「お金を守る駒」、三つに人馬が逆になり、馬が人を引いてくる「千客万来の駒」、四つには馬は右から乗るとつまづき転ぶ習性があることから、左から乗ることにより左前にならない、長い人生つまづかない「商売繁盛の守り神」、など縁起

物や守り神の贈答品やお土産品として人気を集めている。

生産量日本一の天童将棋駒の歴史は江戸時代末期にさかのぼり、織田藩主が武士の生活苦救済のため内職の一つとして「将棋は戦術を練る競技であり、将棋駒づくりは武士の面目を傷つけるものにあらず」と藩士に奨励したことから、今日の天童将棋駒の発展へと続いたものである。木目と木肌、そして駒文字の美しさは、手作りの温もりを通して磨き抜かれた匠の技から本物の量感を確かめることができる。

我が街天童のまち自慢はこのくらいにして、四季折々の表情と大自然をまるごと体験できる周辺の観光スポットを紹介してみよう。樹氷とスキーの蔵王、霊峰月山・修験道の羽黒山・修行の奥の院湯殿山の出羽三山、母なる最上川の四季を楽しむ船下り、千百年の歴史を誇る霊場と芭蕉ゆかりの山寺、下駄を鳴らして歩いてみたい大正ロマンの旅情漂う銀山温泉、そして花笠踊りの発祥の地である尾花沢のスイカは日本一である。サクランボ、モモ、ラフランス、リンゴ、葡萄など四季を通して多彩なフルーツが豊富である。そして黒毛和牛の霜降山形牛、秋の風物詩芋煮会、田舎の味玉コンニャク、そば街道でのそば打ち体験などなど、山形のいい味・いい酒の旨いもの巡りは、豊富な山海の幸に恵まれたおらが古里ならではの美味三昧が堪能できる。

雪解けとともに生命が芽吹く春、サクランボ狩りと夏祭りを楽しむ夏、紅葉と大地の実りを満喫できる秋、深い雪と静寂に包まれる冬、と四季折々の山形はレトロな雰囲気を残す界限と野趣あふれる豊かな自然とが混在する魅力的な"遊び処"である。

今、人生八十年時代を謳歌できる時代になった。それはそれぞれの人生についての

考え方、過ごし方を考え直すことが必要になった、と言うことを意味する。

季節に四季があるように、人生にも春・夏・秋・冬に例えられる四季がある。中国の古語では、《青春》《朱夏》《白秋》《玄冬》として、それぞれの季節感を表現している。

人生八十年を、1～20歳、20～40歳、40～60歳、60～80歳の四段階に区切って、それぞれの時代を「若・青・壮・実」年時代と呼び、三段跳びならぬ人生四段階論を唱えた人がいた。すなわち「助走・ホップ・ステップ・ジャンプ」の四段階で、若年の助走期間は永い旅路の準備期間、青年のホップ期間は社会の荒波への挑戦、壮年のステップ期間は人生の基盤づくりと飛躍の時代、そして実年、熟年と言ってもいいが、人生八十年時代の有終の美を飾るための、最も大切な時期であり、間違っても老年とか老後のための時代とは呼ばれたくないものだ。

さて、いまさら華やかな《青春》時代にかえりたい、と欲の皮をつっぱる気はないし、しょせん無理なこととあきらめているが、せめて人生の大人の季節《朱夏》時代をもっと大事にして生きていたら、と悔やむこの身がなんとも情けない。あわいの季節の《白秋》時代から余生の時代の《玄冬》に突入した今、人生六十年時代から八十年時代への恩恵を満喫し、これからの人生を肩意地はらずに心静かに余生を楽しみながら生きよう、と思うことで日ごろの憂さばらしとしたいものだ。

久しぶりの梅雨空の休日、紅花と紫陽花の舞鶴山の散策のあとの縄のれんでの美酒一献を楽しみに、今宵もよき友を誘い、老年ならぬ余生のための"遊び三昧"と洒落込んで、我が街、湯のマチにくりだすこととしよう……………。